

# 純 潔 教 育

久 川 太 郎

## I 序

人間は思春期を経て、自分の性を肉体的にも精神的にも明確に自覚してゆきます。この性についての問題を医学的に、あるいは心理的にみることは学問としてはなされてきましたが、それを再び教育の場（家庭、学校、その他の社会集団）に純潔教育として戻されることが現在少ないのではないのでしょうか。さらに思春期の発育を単に医学的、心理的にのみ、みるのではなく、社会学的な考察をもする必要がありそうです。また純潔教育は狭いものではないと思われます。というのは青少年白書で明らかなように、性的非行青少年の増加、また梅毒、りん病、軟性下かん、そけいりんば肉芽しゅ症等の性病の蔓延化や、人工妊娠中絶の蔓延化にみられる知識の欠如と性道德の低下等の現状をみる時、純潔教育とは、人間の生命を尊重し、生命を育てる教育であり、男女の両性が、それぞれの役割を知った上での男女の平等など、理想的な社会にふさわしい人格と能力を持った男女になるということを期待し、民主的な人間教育が究極のねらいであるはずで

す。今回は純潔教育の必要性、純潔教育の目的、時期、純潔教育をする立場等を、発達加速現象や、青少年の性的非行、性病や人工妊娠中絶の蔓延化、社会体制と性、等をふまえた上でまとめ、最後に青少年期の性教育をする際のいくつかの問題について考察するつもりです。

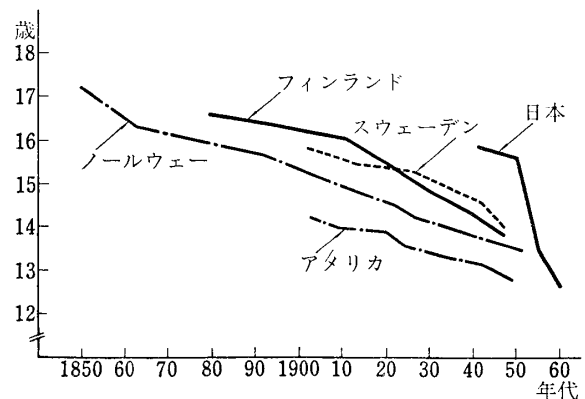
## II 発 達 加 速 現 象

純潔教育を考察するには生体の成長加速現象を第1に考える必要があります。

世代が新たになるにつれて、人間の発達の速度が促進されるという事実が1935年コッホ (Koch, E.W.) に指摘され、さらに1942年にベンホルト・トムセン (Bennholdt-Thomsen, C.) が多くの資料を提示して独自の理論を発表してから発達の加速現象 (acceleration of maturation) は多くの研究者の注目をあび、さかんに研究されてきました。この発達加速現象は、ヒトのからだの時代的な変化 secular trend の重要な

ひとつの特徴であって、身長などの増加、頭型に見られる短頭化現象 brachycephalization などとともに、現在広く問題とされてきています。ここでは、神経系や内分泌器官の傷害によるホルモン分泌異常にもとづくような病的な成熟加速はもとより含みません。この性的成熟を含む発達加速現象は、年齢とともに著しくなり、思春期とよばれる頃、あるいは最大成長の時期にもっとも大きく、その差が成人に移行します。ゆえにわれわれの目には、思春期前後の年齢——8～14歳頃に、いかにも成熟加速のさまがきわだって映るのです<sup>1)</sup>。

第1図 初潮の早期化傾向



第1図<sup>2)</sup>は年次別の初潮の平均年齢の推移です。ノルウェーでは、1850年代は17.1歳、1950年代は13.5歳となっており、この100年間に約3.6歳だけ初潮開始が早くなっています。このほかフィンランド、スウェーデン、アメリカなどの諸国においても初潮開始の平均年齢が著しく低年齢化しています。日本もこの例外ではなく初潮年齢が低年齢化しています。第1表<sup>3)</sup>は

- 1) 『教育心理』, Vol. 13, 7, 「成熟加速の現象」, 東京教育大学教授 木村邦彦, 日本文化科学社。
- 2) Tanner, J.M. の図に私達の調査結果をつけ加えた。
- 3) 九島等『日本婦人科学会雑誌』, 37巻, 昭和17年, 東北地方。

第1表 年代別来潮年齢

昭和16年 現在年齢	30歳未満 婦人	30~39歳 婦人	40~49歳 婦人	50歳以上 婦人
平均初潮年齢	15:050年	15:071年	15:097年	16:008年
調査例	1,571	821	592	654

九島等、『日本婦人科学会雑誌』37巻（昭17），東北地方。

第2表 初潮年齢調査成績

年度	報告書	調査地域	対 象	人 数	初 潮 年 齢
1950	元田ら	八 幡	看 護 婦	258	15年 6月
"	寺内ら	広 島	勤務婦人	594	15 6
1951	河井ら	大 阪	高 校 生	7,000	15 0.5
"	原 岡	山 女 学 生	565	14 7.8	
"	松 本	神 奈 川	女 学 生	789	14 5
"	佐川ら	北 海 道	通 信	771	15 3.2
1952	橋川ら	名 古 屋	医 専 生	226	13 9.3
"	中 西	徳 島	女 学 生	2,786	14 9
"	斎藤ら	鹿 児 島	中高校生	1,000	15 0.7
"	西川ら	東 京	交 換 手	300	15 4.1
1953	広 尾	山 田	交 換 手	244	16 5
1954	三 谷	長 崎	交 換 手	3,875	14 5
"	木 宮	盛 岡	女 工 護 婦	159	14 10.61
"	松本ら	東 京	看護婦	128	14 5.80
"	鈴木ら		看護婦	69	14 9.63
"	鈴木ら		女 工	1,360	15 7
"	岩田ら	東 京	交 換 手	916	14 289
1956	松本ら	東 京	中高校生	616	13 4.91
1958	福島ら	東 京	中高校生	1,080	13 4.42
"	松本ら	東 京	交 換 手	273	14 5

（資料、『成長の生理学』。）

1950年の調査結果です。また第2表<sup>4)</sup>は1950年以後の日本の初潮年齢調査成績です。この二表から昭和16年まで10年に2ヵ月程度早まっていた初潮が1950年以後急速に早まり8年で2年程度も早まっていることが認められます。これは急速に改善されている家庭の食生活と学校給食の影響<sup>5)</sup>が考えられて、このペースがいつまでも続くとは思われません。しかし早まっている傾向は現在でも続いているようで、私の調査<sup>6)</sup>でも第3表のとおり1年に1ヵ月の割で早まっています。この成熟加速現象は初潮ばかりでなく男子においてもみられるものです。第4表は男子の思春期について昭和17年に調査<sup>7)</sup>したものです。当時男子の性的成熟は

4) 『成長の生理学』，日本大学教授馬場一雄，1966年，医学書院。

5) 『学校給食と日本人の発育発達』，川畑愛義，昭和40年，医歯薬出版。

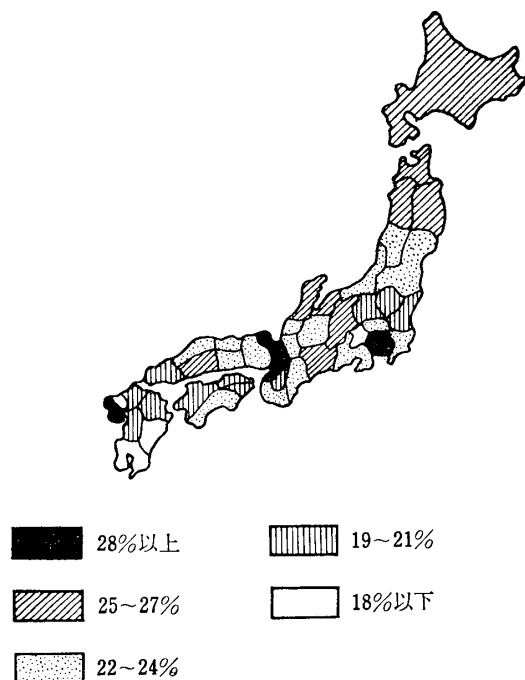
6) 『流通経済論集』，Vol. 2, No. 2, 1967, 9, 「思春期発育に影響を及ぼす諸因子の分析」，流通経済大学学術研究会。

7) 石井『日本内分泌学会雑誌』，18巻。

第3表 都内S校における初潮年齢の推移

中高別	学 年	平均初潮年齢	調 査 例
中	1	12歳 6ヵ月	41名
	2	12 5	58
	3	12 10	82
高	1	12 9.1	201
	2	12 10.2	394
	3	12 11.75	455
全 平 均		12 8.7	1,241

女子に比較して1年程遅れていますが、種々の研究業績から考察すると、現在でも男子は女子より1年ないし1年半程遅れているようです。

第2図 小学校6年卒業前の既潮率の分布  
（昭和36年2月～39年2月）

さらにこの成熟加速現象は居住場所によって、明らかな差があります。第2図<sup>8)</sup>は小学校卒業前の既潮率の分布（昭和36年2月～39年2月）です。これから暑い地方ほど早熟だという『常識』に反して鹿児島、宮崎は日本一の晩熟県であることが認められます。すなわち都市ほど成熟は早く、都市でも大都市ほど、また同じ都市でも中心部ほど、加速現象が目立つようです。第5表は Pessler, G. によるハンノーヴァ市部と郡部との初潮の平均年齢の差をみたものです。すなわち市

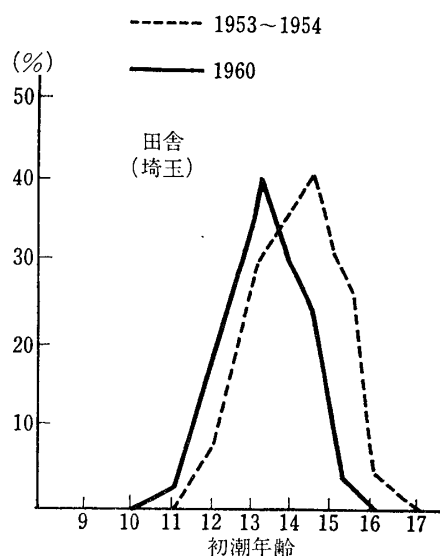
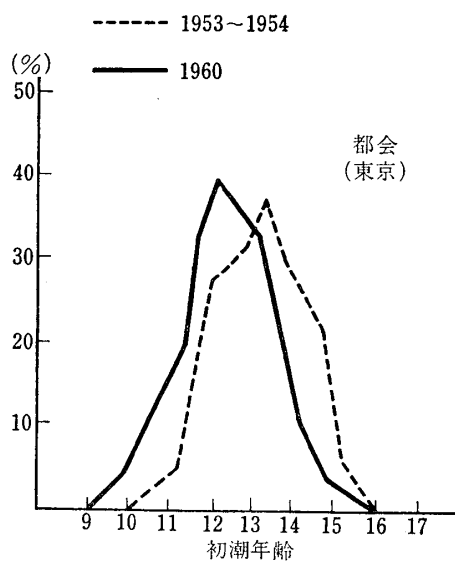
8) 『朝日新聞』，昭和41年1月16日号。

第4表 男子の思春期

〔対異性関心，喉頭突出，音声変調，ヒゲ発生，腋毛発生，陰毛発生，  
陰茎急大，夢精発生等の発現した年齢 季間調査（昭和17年）〕

	中学5年生			医科大学予科生			医専生	総計
発育地	東京	東京以外	合計	東京	東京以外	合計	東京及び地方	
年齢	15.5年	15.9年	15.6年	15.9年	15.9年	15.9年	15.9年	15.8年
最多季節	春	春	春	春	春	春	春	春
例	(174/384)	(94/184)	(269/567)	(60/138)	(341/758)	(401/896)	(52/94)	(722/1,557)
	391	391	1,356	378	1,774	2,152	391	3,898

第3図 初潮年齢分布（昭和28～36年の比較）



第5表 居住地と初潮年齢

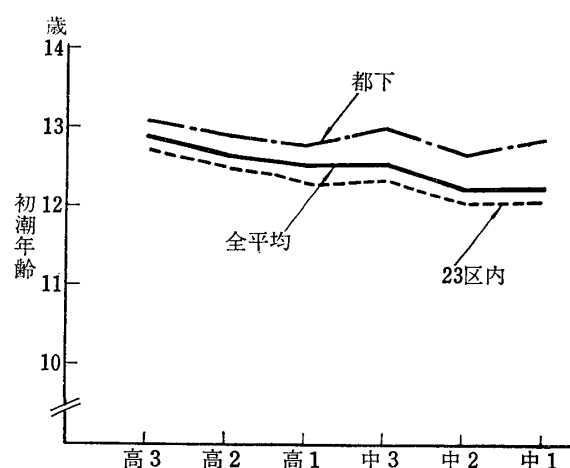
世代	市部	郡部
母	14.6歳	15.1歳
娘	13.2	13.5

（Pessler による。）

部，郡部を問わず加速現象は認められますが，市部の初潮年齢は郡部より早いのです。日本でも同様で第3図<sup>9)</sup>のとおり，都会（東京）と農村（埼玉）との間には加速現象に差がみられます。都会の方が加速現象が目立つのです。私たちの調査<sup>10)</sup>でも第4図のとおり都内23区内に住む者が都下に住む者よりも成熟が早いことが認められるのです。

男子青年の第2次性徴の開始年齢の差をアメリカと日本について，それぞれキンゼイ（Kinsey, A.C.）お

第4図 初潮年齢の年次推移



よび教師養成会が行なった調査結果<sup>11)</sup>は第6表のとおりです。この差はいうまでもなく人種的な差異（素質

9) 『成長の生理学』，前出。

10) 『流通経済論集』，Vol. 2, No. 2, 1967, 9, 前出。

11) 『教育心理』，Vol. 13, 7, 「性的成熟と環境」，東京学芸大学助教授藤原喜悦。

第6表 日米男子青年の2次性徴の開始年齢 (%)

年齢	陰毛		最初の射精		変声	
	教養研	キンゼイ	教養研	キンゼイ	教養研	キンゼイ
11	0.35	7.7	0.35	6.1	1.4	2.9
12	1.4	25.5	2.1	19.5	2.3	14.0
13	12.5	33.5	4.9	29.2	8.3	26.4
14	20.1	22.8	13.2	25.1	23.6	26.0
15	29.1	5.5	27.0	10.2	27.0	14.3
16	23.7	2.0	28.5	4.2	18.4	9.1
17	7.6	0.7	24.7	1.8	6.3	3.3
18	6.9	—	16.1	0.8	10.4	1.6
19	—	—	1.2	0.4	2.3	0.7
20	1.2	0.1	2.3	0.1	1.2	0.4

すが、昭和41年は指数で293と大幅に増加しています。絶対数はさほど多くありませんが増加率の高さが注目され、その中でも少年はわいせつ行為の中で多く、昭和42年<sup>14)</sup>の調査では、48.7%を占め注目されています。年齢別では17歳が最も多く風俗犯少年全体の22.6%を占め、ついで18歳、16歳、19歳、15歳、14歳の順となっています。

第8表<sup>15)</sup>のとおり強姦およびわいせつを性犯罪としてとらえてみますと昭和32年以後の推移は昭和40年までは大幅に増加し、その後わずかに減少の傾向を示しています。しかしながら昭和32年を100とした指数でみるとまだかなり高いのです。昭和41年の性犯少年を

第7表 風俗犯少年(触法少年を含む)の推移

(人)

区分	昭和32年	33年	34年	35年	36年	37年	38年	39年	40年	41年
少年	897 (100)	1,201 (134)	1,309 (146)	1,594 (178)	1,780 (198)	2,010 (224)	2,020 (225)	2,361 (263)	2,361 (263)	2,633 (293)
成人	10,308 (100)	9,423 (91)	8,489 (82)	8,837 (86)	9,953 (97)	10,206 (99)	11,095 (107)	16,517 (160)	21,117 (204)	20,848 (202)

(資料、警察庁。( )内は昭和32年を100とした指数である。)

的)にもとづくことも大きいでしょうが、それとともに居住国の社会的・文化的・経済的諸環境の差異も大きく、日本における都市と農村における発達加速現象の差は、アメリカと日本における発達加速現象の差としてあげた社会的・文化的・経済的諸環境の差異がそのままあてはまるかもしれません。

### Ⅲ 青少年の非行増加、性病の蔓延化

青少年白書<sup>12)</sup>からは次のことが青少年の非行(風俗犯、性犯)について言えましょう。まず第7表は風俗犯少年<sup>13)</sup>(触法少年を含む)の昭和32年以後の推移で

12) 『青少年白書』, 1967年版, 総理府青少年局, 昭和42年10月。

13) 風俗犯は刑法犯に含まれる。ここで用語の解説をすると次のとおりである。

①犯罪少年: 罪を犯した14~20歳未満の少年

②触法少年: 14歳未満で刑罰法令に触れる行為をした少年

③ぐ犯少年: 保護者の監督に服しない、家に寄りつかない、犯罪性のある者につきあうなどで、将来犯罪少年や触法少年となるおそれのある少年

④要保護少年: 非行少年ではないが虐待、酷使、放任され、または児童福祉法による福祉の措置を必要とする少年

⑤不良行為少年: 飲酒、喫煙、けんかその他自己または

年齢別にみますと、17歳が最も多く全体の22.8% (1,376人)を占め、ついで18歳 (21.9%), 19歳 (18.1%), 16歳 (15.9%), 15歳 (10.0%), 14歳 (6.3%)の順となっています。

このような性的非行の動機では「好奇心」によるものが大半ですが、特に有毒図書等の悪影響も見のがせないもので、このため現在全国的に悪書追放「三ない運動」が推進されています。これと同時に中学生、高

他人の徳性を害する行為をする少年

以上のうち①, ②, ③を合わせて「非行少年」、全部を合わせて「非行少年等」と呼んでいる(少年法/警視庁; 少年警察活動規程2条——刑法犯少年: 刑法に触れる行為をした犯罪少年および触法少年, 刑法犯: ①凶悪犯—殺人, 強盗, 放火, 強かん, ②粗暴犯—暴行, 傷害, 脅迫, 恐かつ, ③窃盗犯, ④知能犯—詐欺, 横領, 偽造, ⑤風俗犯—と博, わいせつ(わいせつ行為, わいせつ物), ⑥ぞう物犯—盗品と知りながら, それを買ったり, 扱ったり, 運んだりする犯罪, ⑦その他の刑法犯, ⑧業務上過失致死傷—交通違反人身事故等, 不良行為: 凶器所持, 乱暴, けんか, たかり, 家出, 無断外泊, 怠学, 怠業, 金品持出, 金銭濫費, 婦女誘惑・いたずら, 不純異性交遊, 飲酒, 喫煙, 不良交友, 盛り場はい回, 不健全娯楽, 睡眠薬遊び)。

14) 『少年非行の傾向——昭和42年中』, 警視庁。

15) 『青少年白書』, 1967年度版, 総理府青少年局編, 昭和42年10月。

第8表 性犯少年（触法少年を含む）の推移

(人)

区 分	昭和32年	33 年	34 年	35 年	36 年	37 年	38 年	39 年	40 年	41 年
少 年	3,554 (100)	5,693 (160)	5,713 (160)	5,572 (156)	5,544 (156)	5,456 (154)	5,458 (154)	5,872 (165)	6,121 (172)	6,053 (170)
成 人	5,158 (100)	6,436 (125)	6,409 (124)	6,893 (134)	7,252 (140)	7,009 (136)	7,729 (149)	8,700 (169)	9,945 (193)	10,128 (196)

(資料、警察庁。( )内は昭和32年を100とした指数である。)

第9表 性病別、患者数・り患率・死者数・死亡率

年 次	梅 毒				り ん 病				軟 性 下 か ん				そけいりんば肉芽しゅ症			
	患者数	り患率	死者数	死亡率	患者数	り患率	死者数	死亡率	患者数	り患率	死者数	死亡率	患者数	り患率	死者数	死亡率
昭和22年	148,191	189.7	4,444	5.7	212,784	272.4	46	0.1	40,836	52.3	2	0.0	923	1.2	37	0.0
24	185,785	227.1	5,501	6.7	178,901	218.7	51	0.1	21,669	26.5	1	0.0	635	0.8	5	0.0
26	77,044	91.1	4,630	5.5	177,774	210.2	27	0.0	15,903	18.8	1	0.0	303	0.4	2	0.0
28	38,721	44.5	3,692	4.2	140,458	161.4	16	0.0	12,514	14.4	—	—	163	0.2	—	—
30	28,673	32.1	2,882	3.2	134,571	150.7	14	0.0	4,636	5.2	—	—	70	0.1	1	0.0
32	18,011	19.8	2,630	2.9	87,195	94.6	9	0.0	2,216	2.4	—	—	25	0.0	2	0.0
34	11,468	12.3	2,247	2.4	9,970	10.7	11	0.0	266	0.3	—	—	6	0.0	—	0.0
36	7,313	7.8	1,959	2.1	6,364	6.7	5	0.0	207	0.2	—	—	5	0.0	—	0.0
38	5,761	6.0	1,677	1.7	4,166	4.3	3	0.0	221	0.2	—	—	6	0.0	—	0.0
40	6,000	6.1	—	—	4,663	4.7	—	—	179	0.2	—	—	6	0.0	—	—

校生に対する純潔教育の必要性もうかがえるわけです。さて梅毒、りん病、軟性下かん、そけいりんば肉芽しゅ症等の性病の蔓延化は恐ろしい現象と言わねばなりません。第9表<sup>16)</sup>は昭和22年以後の性病別、患者数・り患率・死者数・死亡率ですが、昭和22年、23年を境として減少の傾向にあった性病は完全にはなくなり、近年また増加の傾向にあることは国民衛生の面からも、また完全に予防可能な伝染病という面からも問題にすべきことだと思われます。

人工妊娠中絶の蔓延化についても母体の保護の点から問題にされねばならないものです。わが国では出産抑制の手段とし相当数行なわれ、母体の健康がはなはだしくそこなわれている実情です。そのため合理的な受胎調節が行なわれるようにするための努力が必要です。人工妊娠中絶件数は正規に届け出されたものだけで第10表のとおりであり、優性保護法にもとづかない本来行なわれるべきでない人工中絶は、かなりの数にのぼるものと推測されるわけです。そして性病の蔓延化、人工妊娠中絶の蔓延化は、発達加速現象や青少年の非行と同次元で考察され、純潔教育にその解決を期

第10表 人工妊娠中絶数

年 度	人 工 妊 娠 中 絶
1951	638,350
1952	798,193
1953	1,068,066
1954	1,143,059
1955	1,170,147
1956	1,159,288
1957	1,122,316
1958	1,128,231
1959	1,098,853
1960	1,063,256
1961	1,035,329
1962	985,351
1963	955,092
1964	878,748

(資料、「人工妊娠中絶報告」)

待されるものであると思われます。

#### Ⅳ 性 の 考 察

##### 1. 社会体制と性

旧道徳的な考えでは、男尊女卑の感覚、欲望としての性の罪悪視があり、このいわば古い感覚が日本人の生活の中に浸透していました。これが性に関する矛盾

16) 『厚生指針——国民衛生の動向』、第13巻第11号、昭和43年10月、厚生統計協会。

として性がきたないもの、みにくいもの、はずかしいものとしてタブーとされ、口に出せないことが多かったのです。そして社会のみならず家庭、学校のすべてにわたって放任されてきて、性、生殖の現象に対して不潔感をうえつけている一方、フェチシズムに代表されるような盲目的崇拜、性器の神性化（性器を奉って拝む風習）が出現しているのです。

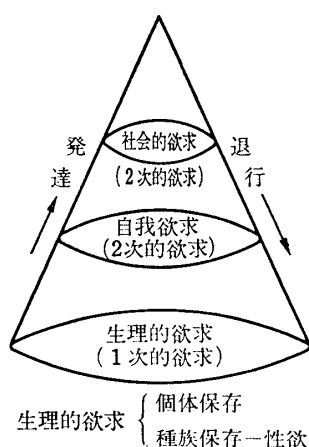
別の面からみると、マスコミが性に対する心理に大きな影響をもたらしていることもうかがわれます。金銭主義という目的をもってマスコミが名目上、旧道徳の誤った観念への反発として出現してきたのです。そして、とじ込み、悪書等の俗に言われるエロ・グロ、卑限な雑誌の氾濫をみせているのが現状です。このことは、不健康な刺激、性に対する不潔感等にみられる社会への悪影響となり、個人には、「性に対するゆがめられた心理」として問題にされるのです。すなわち性犯罪や、異常な潔癖症は性に対するゆがめられた心理から説明できることが多いように思われます。性とは本来神秘的、かつ神聖なものであるはずですが、まちがったマスコミの氾濫、迷信などでその本来の姿が大きくゆがめられつつあるのが現状であると言えます。そしてさき程も述べたとおり、「三ない運動」などがマスコミの悪影響から青少年を守るために全国的に展開されているわけです。以上述べたことは第5図に図示されているとおりですが、享楽主義的なものとして性の解放を述べるマスコミや旧道徳的なフェチシズム的考え方や、タブーとして放任されている性、それらによってゆがめられてきた心理に対して、親、友人、教師、医師その他による話し合い、すなわち純潔教育によって性の解放や、神聖なものとして性を考え他の動物とは違った人間として性を神聖な、よ

り高い段階へ高めることができると思うのです。本論文で問題にしようとする純潔教育の必要性がここでも明確にされるわけです。

## 2. 本 能

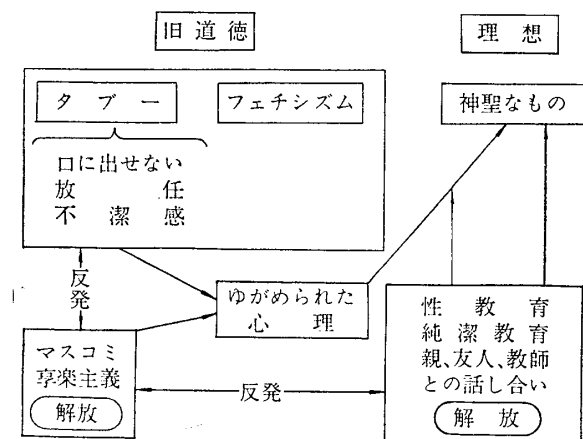
欲求を1次的欲求と2次的欲求に分けることはしばしば行なわれています。そして1次的欲求とは生体の維持にかかわるもので、生得的（本能）なものです。これに対して2次的欲求は自我的、社会的な欲求で、経験によって獲得されていくものです。そして人間としての発達過程や退行過程は第6図で示されます。

第6図 欲求体系



すなわち精神異常は退行現象であると言えます。さて1次的欲求は生体の維持にかかわるものですが、さらに2つの面に分けられます。すなわち個体保存と種族保存の2面です。そしていま問題にしている性欲が種族保存の目的であることは説明できるわけです。さらに性欲が人間のすべての精神生活の根底にあるものと考えられますが、他の動物と違って人間には理性が備わっているので自分を押えることができます。またそれは生の形で発散されることを許されないため、無意識のうちに抑圧されているわけです<sup>17)</sup>。別の言葉で言えば性欲は動物においては種族保存の手段としてのみの性であり、『さかり』という時期の奴隷ですが、人間では体制にとらわれない、種族保存にとらわれない1個の個体としての性であると同時に、体制に束縛されないで、本能のまま行動しながら理性が体制を維持しようと働きかけているわけです。他の動物と同様に思春期以後、多かれ少なかれ性衝動が起こります。そしてこの性衝動を誤って用いると、わたしたちを不幸にします。社会を騒がすような問題を起こします。事

第5図 社会体制と性



17) 『性を考える——父から息子へ』、お茶の水女子大学教授平井信義、昭和42年10月、講談社。

実、性の衝動にもとづく人間の不幸は跡を断ちません。このことは今のみならず将来も起こるでしょう。したがってわたくしたちは性衝動に目をおおっていることはできません。

そこでこの性衝動を人間と他の動物とで比較しますと、前に述べたように人間には人間特有の性衝動の用い方があると思われます。健全な人、すなわち健全な状態とは、肉体と精神が均衡というより1つの輪のようになって生命の維持、種族の保存という方向に進んでいることですから性衝動もこの例外であってはいけないわけです。

### 3. 思春期発育が青少年に及ぼす影響

初潮、精通現象を代表とする第2次性徴が青年にどのような影響を及ぼすのでしょうか。すなわち女子では9～12歳、男子で11～14歳頃からはっきりとした性のめざめが始まってきます。この性のめざめはその子供が正常である限り必然的に起こるものであり、もし性のめざめが起こらない場合には異常者となることもあります。さらに性のめざめは青年の生活態度にも影響を及ぼしているのです。これは知的発達と関係がないか、あるいは薄く、精神薄弱児にも現われるのです。

間宮武氏は調査によって、青年が自己の性的成熟に対してどのような反応をしているか。学生と勤労青年について比較研究しています。その結果第11表のように、男子の精通現象の場合、「うれしかった」「おとなになった感じ」「予期したものが生じた感じ」などの肯定的な受け取り方をしたものが勤労青年に多くみられますし、「不安な感じ」「だれかに打ち明けたい感じ」などは学生に多くなっていることがうかがえます。このような受け取り方の差は勤労青年が早くから成人の世界に仲間入りして、その日常生活において、性的

第11表 自己の性的変化に対する感じ (%)

感 じ 方	男 子		女 子	
	学生	勤労青年	学生	勤労青年
うれしかった	4.2	16.7	3.4	0.8
おとなになった感じ	16.6	26.7	15.3	5.0
予期したものが生じた感じ	13.9	23.4	24.5	3.3
不安な感じ	16.2	6.7	27.6	2.5
だれかに打ち明けたい感じ	4.2	0.0	10.9	4.2
びっくりした	11.2	16.7	34.8	10.0
いやな感じ	15.8	16.7	35.6	10.8
はずかしい感じ	13.1	16.7	30.2	8.3
そのほか	3.5	8.3	4.9	50.9
(人 数)	(259)	(30)	(387)	(120)

(男子：精通現象，女子：初潮，間宮氏による。)

知識を得ていることにもとづくと考えられるのですが、知識を与える方の人格が悪い場合やマスコミからの知識がその大部分だと考えますと、むしろ喜ぶことができないのが現状である点は前に述べました。

一方女子の初潮については「うれしかった」「おとなになった感じ」「予期したものが生じた感じ」などの肯定的な受け取り方をしたものが学生に多くいながら同時に「不安な感じ」「だれかに打ち明けたい感じ」「びっくりした」「いやな感じ」「はずかしい感じ」などと否定的な受け取り方をしたのも学生に多くなっていることは興味ある点です。そして男子、女子を問わず、これらの受け取り方の差異は、おそらくは性知識の程度、家庭における両親間の人間関係、母親の性に対する考え方や態度、両親と子どもの人間関係、あるいは学校、家庭、社会でのすべての教育の場における純潔教育の程度などの諸要因が複雑にからみあって生ずるものであると考えられます。間宮氏はさらに、これらの性的変化による生活態度の変化が生じたかどうかを調査して第12表のとおりまとめています<sup>18)</sup>。

第12表 性的変化による生活態度の変化 (%)

	生じた	生じない	わすれた	不 答	人 員
〔男〕 学 生	28.9	23.1	25.5	22.5	259人
勤労青年	30.0	23.3	43.3	3.4	30
〔女〕 学 生	21.9	34.6	32.3	11.2	387
勤労青年	11.7	16.7	20.8	50.8	120

(間宮氏による。)

これによると、男子青年の場合には、生活態度に変化が生じたものは学生、勤労青年とも約30%で、生活態度に変化を生じないものが約23%でともにほとんど差を生じていませんが、少なくとも男子において性的成熟は青年男子の生活態度に変化を及ぼしていると言えるそうです。

女子青年の場合に生活態度に変化が生じたというのは学生の方が勤労青年に比較して多いのですが、生活態度に変化が生じないと答えたものはさらに多いことから、男らしさ、女らしさと表現される生活態度の相違は徐々に行なわれることがうかがえるわけです。なお、解答中、不答の者が女子では勤労青年が、学生に比較して圧倒的に多く、被調査者が、性的成熟に対して、不安やはじらいを女学生より多くもっていることが推測されるわけです。このことは私が都立高校J

18) 『青年の心理』、佐藤正・間宮武・藤原喜悦、岩崎書店、昭和33年。

校、B校で調査した時も同様の結果が出ています。

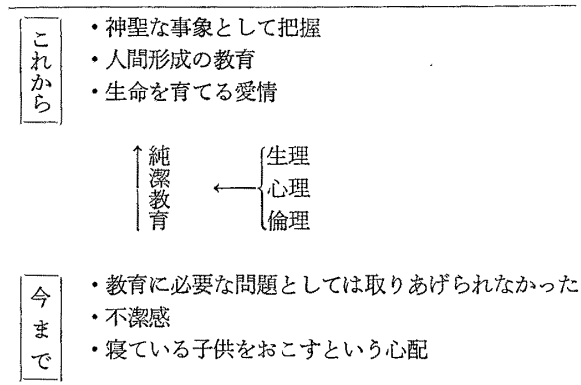
青年の性的成熟による生活態度の変化の調査からもうかがえますが、第2次性徴の発現と性のめざめ（異性に対する関心、性および生殖器に関する現象への関心）が均衡している場合はともかく、均衡が欠けている子供では心身の異常＝不健康が起きやすいと考えられています。また第2次性徴があり、性のめざめがある正常な子供でも、それに対する学校、家庭、その他社会集団が、「異性のことを考えずに勉強せよ」とか、「性は不潔なものだ」という抑制だけをする（このことは特に文明国においては強い傾向です。すなわち性に対して軽蔑的で閉鎖的にかえってこれが逆効果となって、同時に悪質マスコミの氾濫も大きな影響を与え、性への変な関心を起こすのです）、性について神聖なものだという理想に到達できなくなるのです。むしろここでマスコミの影響や旧道徳を批判する能力をつけるべく、そして心身ともに健康な青年として安定するような正しい純潔教育が必要なことは言うまでもないのです。

## V 純 潔 教 育

### 1. 純潔教育の必要性

いままでのわが国での純潔教育に対する考えとこれから進むべき道は第7図に示されます。いままでわが

第7図 純潔教育の必要性



国では純潔教育に対しては反対意見が強かったのです。すなわち純潔教育（性教育）をするとかえって無知な子供に刺激を与えとか、子供は知らない方が、気がつかない方がいいという空気が強く、俗に言う寝ている子を起こさない方がいい（子供の性的衝動を刺激し、性的異常行動に走らせるのではないかという不安）という考えから、いままでは教育に必要な問題として取りあげられなかったのです。しかしそれは誤りなのです。それは次のような理由によります。

第1は、前にも述べたとおり、第2次性徴（男子の精通現象、女子の初潮）にしても欧米では10年に4ヵ月のペースで、日本ではもっと早いペースで性的成熟のみならずその他の発達加速現象が見られている事実があることです。

第2は、性的非行青少年の増加がいま問題になっていることです。

第3は、男子、女子とも性的成熟にいくばくかの不安感と、「びっくりした感じ」、「いやな感じ」をもっている現状があることです。

第4は、性的成熟の発達につれて、多かれ少なかれ、青年の生活態度に変化がみられているということです。

第5は、梅毒を始めとする性病の蔓延化、ならびに人工妊娠中絶の蔓延化の現象がみられることです。

第13表は宇都宮市立錦小学校（昭和38年から純潔教育研究校になった）での Menstruation の知識調査の結果です<sup>19)</sup>。

第13表 Menstruation についての知識 (%)

項 目		5 年	6 年
知識の理解度	詳しく知っている	0	1.7
	だいたい知っている	14.3	50.1
	あまり知らない	14.3	33.3
	全然知らない	71.4	15.0
知識を誰から得たか	母	81.2	47.2
	友 達	9.4	41.1
	姉	9.4	7.8
	教 師	0.0	3.9

6年生では85%、5年生では28.6%の知識があるのです。その知識はだれから得たかという点、母親と友達がこのほとんどを占めているのです。すなわち子供は何らかの方法で性的成熟について知っているわけです。ということは教えることを怖れるのは誤りで、正しい知識を知っている方がより望ましいと思われるわけです。さきほど述べた錦小学校で初潮指導についての保護者の意見は次のとおりです。

初潮指導を不必要とするもの 2%

初潮指導を必要とするもの 92%

必要とするものの意見には「突然に初潮が生じたとき、安心して処理できるように」というものがほとんどでした。反対意見は前に述べたものです。

教育が本来心身とも健全な人間の育成を目的に行な

19) 『教育心理』, Vol. 13, 7, 「わが校の純潔教育」, 宇都宮市立錦小学校長江連正。



われるものである限り、深く人間性につながりをもっている性の問題をぬきにしてはその目的を達することはできないのです。またひとたび性について目ざめた青少年はそれをまったく無視することはできないということも、そこに第2次性徴に対する指導が教育内容として含まれるべきであることになると思われます。

## 2. 純潔教育の目的と時期

これは前にも部分的には述べましたが、年齢的、段階的な目標の設定も大切なことです。

(1) 小学校就学以前の子供について子供の性に関する疑問すなわち生命の神秘、尊厳性について発達段階に応じて解決すること、生殖器を大切に、衝動的な要求をコントロールする能力をしつけを通して養うことが目的となりましょう。

(2) 第2次性徴の発現の前後の頃では、第2次性徴についての正しい理解と不安の除去、すなわち自分の身心の発達状態を正しく判断する能力を身につけ、大人になることへの喜びと自覚を持たせることです。そして性衝動に対する正しい昇華の方法を身につけることでしょう。さらに第2次性徴の起こる前に、性的成熟について不安を持たせないことと、自己の正常な成熟現象をむしろ喜ぶ態度を養うことが必要であることは言うまでもありません。これが完全に行なわれるためには率直に話し合える家庭、学校、社会集団が必要です。

錦小学校では初潮指導の目的について、

- 1) 清潔感を育て深める
- 2) 男女の協力の態度を育成する
- 3) 身体の発育について正しく理解させる

と述べていますが純潔教育の目的を明確に示しています。

また初潮指導の時期については

小学校5年生に指導する	25%
小学校6年生に指導する	64%
中学生になって指導する	11%

という結果がさきほどの錦小学校から出されていますが、私はむしろもっと早く純潔教育の第2段階として行なうべきであると思います。すなわち小学校3年以後毎年行なう必要があると思うのです。これは私の調査からも言えることですが、初潮の平均年齢が12歳5ヵ月で、9歳で初潮という子供もめずらしくない現状では、純潔教育の目的を達成するためには小学校3年生以後毎年するのが望ましいと思われます。

純潔教育とは、人間の生命を尊重し、生命を育てる

愛情の教育であり、生理と心理と倫理の統合された人間教育なのです。

## 3. 純潔教育を教える立場

初潮と精通現象の指導の適任者についての調査は第14表のとおりです。

第14表 第2次性徴の指導について

場 所	指 導 者	比 率 (%)
学 校 で は	校 医	10.7
	担 任	27.7
	保 健 主 事	38.5
	女 の 先生	4.4
	養 護 教 諭	18.7
家 庭 で は	母	69.2
	{男 子 は 父} {女 子 は 母}	29.8
	両 親 で	1.0

(宇都宮市立錦小学校。)

純潔教育とは本来は就学年齢以前からしつけとして生殖器をだいにすること、夫婦の生活態度が子供により影響を与えること、さらに衝動的な要求をコントロールするためのしつけをしておく必要があると思われることは前に述べました。これらは第2次性徴の時期にきても何一つ変更すべきものではないのですが、現状では限界があることに気がつくのです。すなわち親の古い観念、子供が恥ずかしがって口に出さないなどです。家庭外での人間関係の確立によって、友達、マスコミからの誤った性に関する知識による不潔感と潔癖さが親子間で話せない原因でしょう。そのためには小学校以後での学校教育内での純潔教育が重要視されねばなりません<sup>20)</sup>。第13表でも明らかなように、家庭においては母親の立場が重要視されていますが、これは今までの家庭で父親の占める地位が低いため、本当は父母ともに娘、息子の純潔教育にあたれることが望ましいのです。

学校においては保健関係の先生にその指導を望んでいるようです。男の担任のある場合は女の先生にやってもらいたいという意見もありますが、教育者の育成はこの純潔教育の効果を完全になすための緊急の事項であると言えます。教育者側に性に関する正しい理解、知識、自信をもっていることが必要なのであって虚飾を捨てたはだかとはだかの人間の出会いから正しい純潔教育が始まると思うのです。教えるのではな

20) 『教育心理』, Vol. 13, 7.

「思春期の変化の指導」, 芦屋市立精道中学校教諭北尾教馬。

く、話し合うのです。いままで述べたように、学校においては組織だった純潔教育ができるわけですが、個人に応じた適切な処置をすることはあまり容易なことではありません。すなわち学校教育における純潔教育が最高のものなのではなく、むしろ学校、社会、家庭との相互の連携によって個人に応じた適切な解決法をとることが望ましいのです。そして適任者は、両親であり、教師であり、医師であるわけです。

#### 4. 青年期の純潔教育

##### a 身体面

青年期に入り第2次性徴が始まり、性へのめばえを見せはじめた青年——特に男子——の純潔教育は子供時代のしつけの純潔教育では目的を達することはできません。すなわち男性の衝動的エネルギーの処理をどうするかということが大きな問題となります。女性は青年期に入り初潮があったといっても第11表と第12表を使って前にも述べたとおり、身体的には問題がないわけです。ここで、男性の肉体的エネルギーの処理の仕方としては次のようなことが考えられます。

第1は心理学で述べるところの抑圧 (subjection) です。これは意志力で性衝動をおさえつけてがまんするということですが、これはノイローゼとかあるいは不健全な爆発をしたりすることもあります。そのために、この抑圧だけでは問題があるわけです。

第2は昇華 (sublimation) です。いまでもそうですがフロイト以前は、性欲を「悪」の概念で考えてきました。だからもっぱら性衝動をおさえることが、人間としての道であるかのような気がしていたのです。その考えに対して、性欲を正面で認め、人間存在の中心に置いたのがフロイトでした。そしてこの青年期の激しい性的衝動を昇華することが人間の正常な発達をとげさせるものだと考えたわけです。そしてもし性欲をおさえただけですとかえって異常な発達を遂げると説明したのです。以上のように人間の存在の中に性欲を位置づけ、第2次性徴が起こる以前の異性間の感情は意識下として体系化したのはフロイトの偉大な業績なのです。

実際の指導では青年期の激しい性衝動を社会的にみて性欲よりさらに高い次元の要求、学習、スポーツ、あるいは社会生活に必要なものの習得に向けるわけですが、この昇華を青年期の発達にあわせて扱うことは容易なことではありません。すなわち子供の時期に清潔感を養い、男女の協力する態度を養い、身体の發育について正しく理解し、性欲がだれにでも存在するこ

とを知った上で昇華が知的のみならず意識的に行なわれる必要があるわけです。

第3は醇化という方法です。醇化というのは、動物的な性衝動を人間的な恋愛感情にまで高めるという意味です。とかく肉体的なことに向いがちな関心を精神的な美しい恋愛や仕合わせな結婚への憧れに切りかえさせるということです。この仕合わせな結婚をしたいという憧れの気持ちをもち続けることによって、単なる動物的な性衝動をおさえ、純潔を守り、自重して健全な将来への設計をするのが醇化であるわけです。

##### b 精神面での指導

今まで恋愛文学を子供に読ませることに抵抗を感じる人が多かったのですが、この青年期の人に対して名作といわれる恋愛小説を積極的に読ませるべきだと考えます。本格的な精神的な恋愛小説は、青年の性衝動を醇化し、品性を高める貴重な教材であり経験だと思われます。またテレビその他の内容について親子間で話し合うのも素晴らしい効果を期待できるでしょう<sup>21)</sup>。

##### c その他

生活面での指導（男女の交際、恋愛の問題、結婚の問題、性道徳の問題）もありますが、一応のことは前に述べましたし、次の機会に考察することにします。この性欲の取り扱いと同時に性病の恐ろしさを十分に知らせておくのも大切なことでしょう。性病の知識とその恐ろしさ——いま日本では梅毒を始めとして、りん病、軟性下かん、そけいりんば肉芽しゅ症などが蔓延化していることや、梅毒からくる精神病や流産、りん病による不妊症、その他人格的な欠陥の起こりやすいこと、さらにはこの性病は絶対遺伝しないし予防が可能なことなど——を知らせる必要があるのです。

## VI む す び

いまでも純潔教育などをするとかえって無知な子供に刺激を与えるから、子供には知らせない、気がつかさない方がよいと思われてきました。すなわち教育に必要な問題として取りあげられなかったのです。しかしそれは誤りでした。性的成熟を含む発達加速現象が年毎に著しくあらわれ、性的非行青少年の増加が社会問題となっていること。また性的成熟に多少とも不安感を青年男女がもっていること。さらには第2次性徴後の青年の生活態度が変化していること。性病の蔓延化、人工妊娠中絶の蔓延化等が問題にされている現

21) 『学校保健研究』, Vol. 8, No. 8, 1966. 8, 「性教育の諸問題」, 愛媛大学教育学部宮本七郎。

在では純潔教育を放置しておくことは、マスコミの悪影響や旧道德の悪影響に青少年をさらすことになります。青少年を悪影響から守るために、家庭、学校、その他の社会集団のすべてにおいて純潔教育をおし進めねばなりません。教育が本来心身ともに健全な人間の育成を目的に行なわれるものである限り、深く人間性につながりをもっている性の問題をぬきにしてはその

完全を期し得ません。そして純潔教育とは人間の生命を尊重し、生命を育てる教育であり、男女の両性が、それぞれの役割を知った上での男女の平等など理想的な社会にふさわしい人格と能力をもった男女になることを期待し、民主的な人間教育が究極のねらいであることを決して忘れてはならないのです。